

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16K04846

研究課題名（和文）後期学齢期にある人工内耳装用児の心理・社会的発達に関する研究

研究課題名（英文）Psychological development of cochlear implanted children on late school age

研究代表者

齋藤 友介（SAITO, YUSUKE）

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：50297082

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：人工内耳とは重度聴覚障害者に適応される人工感覚器である。日本では、2000年代に入ると、小児人工内耳埋め込み手術が、全国的に普及した。そして、近年ではこうした子ども達（以下、小児IC児。）が学齢期や青年期・成人期を迎えている。一方、小児CI児については、我が国では幼児期における聴取や構音（発音）、言語発達などの課題が精力的に検討されてきたものの、他方において、すでに諸外国において報告されている、学校を含む社会生活場面において、小児CI児が経験する心理・社会的な問題については、研究そのものが未着手の状態にあった。本研究では学齢期にある小児CI児の心理・社会的発達について検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日、我が国では幼児期に人工内耳埋め込み手術を受けた、多くの小児CI児が学齢期や成人期を迎えているものの、学齢期以降の心理・社会的発達については、必ずしも十分な解明が進んでいなかった。本研究では学齢期にある小児CI児の、抑うつ傾向やセルフ・エスティーム（自尊感情）といった心理的適応指標を用いた検討に加えて、小児CI児の長期アウトカムの評価指標として重要な、高校卒業後の進路選択や就労に関わる分析を行った。本研究により明らかにされた知見は、小児CI児の幼児期から青年期までの、切れ目のない個別の支援計画の立案と実施に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：A cochlear implant is an artificial sensory organ adapted for people with severe hearing loss. In Japan, pediatric cochlear implant surgery became widespread nationwide in the 2000s. In recent years, these children (children with IC children) are entering their school days and adulthood. On the other hand, for pediatric CI children, issues such as listening, articulation (pronunciation), and language development in early childhood have been energetically examined in Japan, but on the other hand, including schools that have already been reported in other countries. Research itself has not yet begun on the psychological and social problems experienced by pediatric CI children in social life situations. In this study, we examined the psychosocial development of pediatric CI children in school age.

研究分野：特別支援教育

キーワード：人工内耳 心理・社会的発達 学齢期 聴覚障害

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本邦においては、2000年代に入ると、重度聴覚障害幼児への人工内耳埋め込み手術が全国的に普及した。そして、近年ではこうした子ども達（以下、小児CI児。）が学齢期や青年期・成人期を迎えている。

一方、小児CI児については、我が国では幼児期における聴取や構音、言語発達などの課題が精力的に研究されてきたものの、他方において、すでに諸外国では検討が進んでいる、学校生活を含む社会生活における心理・社会的な課題や、長期アウトカムの評価指標としても重要な、高校卒業後の進路については、研究そのものが未着手の状態にあった。

### 2. 研究の目的

こうした我が国における小児CI者に関する研究動向を踏まえ、本研究では、学校生活を含む社会生活において、小児CI児が経験する心理・社会的な課題に加え、高校卒業後の進路や職業選択の課題について検討することを通して、幼児期から青年期・成人期に至る、切れ目のない支援に寄与する、基礎的知見を得ることを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1)対象

関東地方にある大学病院(1施設)と関西地方にある大学病院(1施設)の耳鼻咽喉科外来において、継続して人工内耳の聴覚管理を行う小児CI児のうち、本研究への参加の了解が得られた者を研究対象とした。

#### (2)方法

研究は上記の対象児に対して、言語聴覚士が個別面接方式で調査を実施した。なお、研究の立案にあたっては、当該施設の研究倫理委員会による審査を受けた。

### 4. 研究成果

本研究により得られた成果のうち、心理・社会的発達と高校卒業後の進路について、以下に紹介する。

#### (1)心理・社会的発達

心理・社会的発達に関連して、セルフ・エスティーム（以下、SE。）学校生活の質、抑うつ傾向、反応スタイルについての検討を行った。

学齢期にある小児CI児のSEは、聞こえに関連する要因とは関連が認められなかったものの、学校生活の質のうち「友達関係」と「学業」の双方に対して、ポジティブに作用することが確認された（花本ら、2018）。

抑うつ傾向については、人工内耳を装用した状態での聞こえの程度である、装用閾値と抑うつ傾向の得点間に関連が認められた。加えて、ストレス事象に遭遇した場合の対処スタイルである、反応スタイルとの関連では、「反すう」が抑うつに対して、ネガティブに作用することが確認された（諏訪ら、2018）。

#### (2)高校卒業後の進路

高校（聴覚障害特別支援学校の高等部を含む。）卒業後の進路については、約半数の小児CI児が四年制大学に進学していた（河野ら、2016）。

さらに、大学に進学した者では、小学校就学時点における理解語彙指数が、非進学の者と比べて、高いことが確認された（齋藤ら、2017）。

その他、小児CI児がもつ職業興味については、ろう学校での教育を経験した群において、人に接する職業よりも、ものを扱う職種への指向が強いことが確認された（杉中ら、2017）。

### 5. まとめ

今日、我が国では幼児期に人工内耳埋め込み手術を受けた、多くの小児CI児が学齢期や青年期・成人期を迎えているものの、学齢期以降の心理・社会的発達については、必ずしも十分な解明が進んでいなかった。本研究では学齢期にある小児CI児の、セルフ・エスティーム（自尊感情）や抑うつ傾向といった、心理的適応指標による検討に加えて、小児CI児の長期アウトカムの評価指標として重要な、高校卒業後の進路選択や就労に関わる分析を行った。本研究により明らかにされた知見は、小児CI児の幼児期から成人期までの、切れ目のない個別の支援計画の立案と実施

に寄与するものである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 11
2. 論文標題 米国の聾学校および聴覚障害教育関連施設において使用されるコミュニケーション様式の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（大東文化大学大学院文学研究科教育学専攻）	6. 最初と最後の頁 89-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 5
2. 論文標題 米国の大学における聴覚障害学生への支援の現状 —全米ろう者の中等教育後アウトカムセンターの報告書（2020）から—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教職課程センター紀要（大東文化大学）	6. 最初と最後の頁 197-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 57
2. 論文標題 人工内耳を装用する高校生の学級における機能的アウトカム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大東文化大学紀要社会科学	6. 最初と最後の頁 257-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 4
2. 論文標題 人工内耳を装用する大学生等の教室における機能的アウトカム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職課程センター紀要（大東文化大学）	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介・杉中拓央	4. 巻 10
2. 論文標題 聴覚障害大学生の教室における機能的アウトカム評価の基準となる聴者大学生の成績の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（大東文化大学大学院文学研究科教育学専攻）	6. 最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 9
2. 論文標題 後期学齢期にある人工内耳装用者の学習コンピテンス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（大東文化大学大学院文学研究科）	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井杏湖・河野淳・齋藤友介・富澤文子・野波尚子・大田陽子・池谷淳・塚原清彰	4. 巻 61
2. 論文標題 人工内耳装用中学生の国語学力の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AUDIOLOGY JAPAN	6. 最初と最後の頁 576～582
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東瑞樹・益子徹・杉中拓央・齋藤友介	4. 巻 WTT201839
2. 論文標題 人工内耳装用者の音楽的嗜好に関する調査研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 信学技報（電気情報通信学会）	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井杏湖・齋藤友介・河野淳・富澤文子・野波尚子・鮎沢詠美・塚原清彰	4. 巻 121
2. 論文標題 学齢期にある人工内耳装用児の構音に関する検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本耳鼻咽喉科学会報	6. 最初と最後の頁 201～209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 46
2. 論文標題 人工内耳を装用する中学生の読み書き学力と就学時変数との関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 聴覚言語障害	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介	4. 巻 46
2. 論文標題 日本語版聴覚障害生徒向け学級参加尺度(JCPQ)の聴者大学生における基準値の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 聴覚言語障害	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤友介・白井杏湖・富澤文子・野波尚子・河野淳・杉中拓央・塚原清彰	4. 巻 60
2. 論文標題 人工内耳装用高校生の大学進学とその関連要因	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 AUDIOLOGY JAPAN	6. 最初と最後の頁 136～142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉中拓央・齋藤友介・河野淳・白井杏湖・富澤文子・野波尚子・塚原清彰	4. 巻 60
2. 論文標題 人工内耳を装用する聴覚障害性との職業興味に関する検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 AUDIOLOGY JAPAN	6. 最初と最後の頁 129～135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野淳・齋藤友介・白井杏湖・富澤文子・野波尚子・鮎沢詠美・塚原清彰	4. 巻 59
2. 論文標題 人工内耳装用児の進学・就労についての検討	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 AUDIOLOGY JAPAN	6. 最初と最後の頁 267～268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 諏訪圭子・花本麻佐美・齋藤友介・鎌倉武史・佐藤崇・太田有美
2. 発表標題 人工内耳装用大学生におけるオンライン講義の受講状況
3. 学会等名 日本聴覚医学会第65回学術講演会 (於: ウィンクあいち)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花本麻佐美・齋藤友介・諏訪圭子・佐藤崇城・太田由美
2. 発表標題 人工内耳を装用する大学生の授業理解と抑うつ傾向
3. 学会等名 日本聴覚医学会第64回学術講演会 (於: 大阪国際会議場)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花本麻佐美・諏訪圭子・齋藤友介・太田由美他
2. 発表標題 学齡人工内耳装用者のセルフ・エスティームとその関連要因
3. 学会等名 日本聴覚医学会第63回学術講演会（於：神戸国際会議場）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 諏訪圭子・齋藤友介・花本麻佐美・太田由美他
2. 発表標題 学齡期人工内耳装用者の抑うつ傾向と反応スタイルの影響
3. 学会等名 日本聴覚医学会第63回学術講演会（於：神戸国際会議場）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yusuke Saito
2. 発表標題 Developmental trends of depressive symptom in Japanese cochlear implanted students
3. 学会等名 PITL (Promoting Inclusion, Transforming Lives) International Conference (at Univ. of Dundee, Scotland) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 有美  (Ota Yumi)  (00598401)	大阪大学・医学系研究科・助教    (14401)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河野 淳  (Kawano Atsushi)  (00224808)	東京医科大学・医学部・教授    (32645)	
研究分担者	白井 杏湖  (Shirai Kyoko)  (10626279)	東京医科大学・医学部・講師    (32645)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The 7th International Symposium on Special Education	開催年 2016年～2016年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関